



反逆性 | 1920年

自由を扶くは 望月桂

Mochizuki Katsura

2025 4.5 sat. – 7.6 sun.

主催：公益財団法人原爆の図丸木美術館
共催：安曇野市教育委員会

企画：望月桂調査団（代表：足立元）
助成：日本学術振興会科学研究費助成事業
サントリー文化財団
公益財団法人小笠原敏晶記念財団



原爆の図丸木美術館

〒355-0076 埼玉県東松山市下唐子1401

望月桂 自由を扶くひと

望月桂(1886-1975)は、日本でもっとも早いアンデパンダン展のひとつとされる黒耀会を結成した芸術家です。黒耀会は、社会の革命と芸術の革命は自由獲得を標榜する点において不可分であると主張した芸術団体です。美術に限らず、文学や音楽、演劇など、さまざまな領域の表現者や労働運動家が参加して1919年に結成されました。参加者の顔ぶれは、アナキズム運動の中心人物であった大杉栄や、社会主義運動の指導者となる堺利彦、民俗学者の橋浦泰雄、演歌師の添田唾蟬坊など、類例のない多彩さでした。表現はあくまで個人のもので他人の評価を前提としないという考えのもと、無審査で誰もが参加できる自由さも重要な特徴でした。1922年頃に解散するまで4度の展覧会を開催し、プロレタリア美術運動の草分けとして評価されています。

しかし望月の活動はそれだけではありません。黒耀会結成前には一膳飯屋を営み、社会運動家や労働者の集う場を形成していました。1920年代後半には犀川凡太郎の筆名で読売新聞に漫画を描き、その後平凡社の百科事典の挿絵も手がけました。1938年から39年までは漫画雑誌『バクショー』を主

宰し、漫画家の小野佐世男や、東京美術学校で望月の同級生だった藤田嗣治も参加しています。1945年に長野県東筑摩郡中川手村(現・安曇野市)に帰郷後は、地主の立場でありながら戦後の農地改革を先導し、農民運動に尽力しつつ、信州の自然を題材に数多くの風景画を残しました。

本展は、こうした幅広い活動と、その活動に貫かれた自由と扶助の精神を紹介するものです。開催にあたっては、長年望月を研究してきた二松学舎大学准教授の足立元(美術史・社会史)の呼びかけにより、美術館学芸員や地元地域の関係者、美術・文学・社会運動などの研究者、アーキビスト、ジャーナリスト、編集者らによる「望月桂調査団」が組織され、ご遺族の厚意のもと、3年前から資料調査を進めてきました。特筆されるのは、かねてより望月を敬してやまない風間サチコ、卯城竜太、松田修といった現代アーティストも調査団に参加し、本展のタイトルやロゴマークの考案、展示監修、映像制作といった役割を担うことです。こうした職業的立場を超えた連携による展覧会の立ち上がり方も、黒耀会の精神を今日的な視点から読みなおす重要な導線となるでしょう。

望月の掲げる問題意識は、閉塞した日常を生きる私たちにも通じるものです。本展では、油彩画、水墨画をはじめ、デッサンや漫画、関連資料など約120点を展示し、その足跡をたどります。

稔りの秋 | 1940年



一膳飯屋へちまの
とっくりとおちよこ | 1916年頃



機械は大丈夫か | 1920年



遠めがね | 1920年



ある日の大杉 | 1920年

シンポジウム 望月桂を探求する

2025年5月17日(土)

●午後1時開始
(2部構成)

出演

足立元
(二松学舎大学)

塩原理絵子
(安曇野市教育委員会)

村田裕和
(北海道教育大学)

古屋淳二
(アナキズム文献センター)

風間サチコ
(アーティスト)

卯城竜太
(アーティスト)

松田修
(アーティスト)

岡村幸宣
(原爆の囃丸木美術館)

無料
(美術館入館券が
必要です)
定員100名
(当日先着順)

関連書籍

展覧会にあわせて
無償配布のZINEを
発行予定

対談

望月桂を発見する

2025年5月31日(土)

●午後2時開始

無料
(美術館入館券が
必要です)
定員100名
(当日先着順)

武田砂鉄
(ライター・ラジオパーソナリティ)

足立元

公益財団法人 原爆の囃丸木美術館

〒355-0076

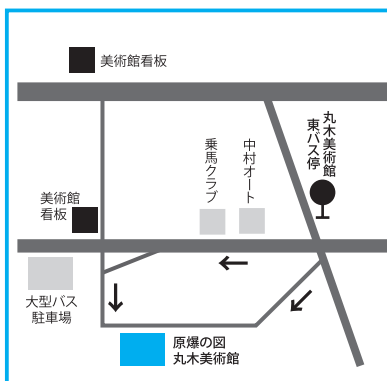
埼玉県東松山市下唐子1401

TEL 0493-22-3266

FAX 0493-24-8371

<https://marukigallery.jp/>

info@marukigallery.jp



- 開館 9:00~17:00
- 休館 毎週月曜日(祝日にある場合は翌平日、4/22~5/6は無休)
- 観覧料 一般900円、中高生または18歳未満600円、小学生400円(比企・東松山在住者・チラシ持参は各通常料100円割引、障がい者は半額)、60歳以上800円

交通

東武東上線森林公園駅よりタクシー10分、徒歩50分
東武東上線東松山駅より市内循環バス唐子コース(日祝休休)
「丸木美術館東」下車徒歩15分
関越自動車道 東松山インターより小川方面10分
東武東上線つきのわ駅から徒歩30分
※詳細は丸木美術館にお問い合わせ下さい

市内循環バス時刻表(日祝休休)

東松山駅東口発 ⇒ 丸木美術館東行
8:45 | 10:10 | 11:10 | 12:10 | 14:30 | 15:35
丸木美術館東発 ⇒ 東松山駅東口行
10:42 | 11:42 | 12:42 | 15:02 | 16:07 | 17:32